



研究部会報告

●投資と金融のOR●

●第21回

日時：3月24日(土) 14:00～17:00 出席者：66名

場所：東京工業大学百周年記念館

テーマと講師：(1)「日本株式ファクターモデルの実証分析」明日雅昭，福井正樹（野村総合研究所）

因子分析を用いて日本株のファクターモデルの実証分析を行ない，各種の統計的検定により共通ファクター数を推定した．またファクターモデルの応用として，インデックスファンドの作成例を紹介した．

(2)「Fundamentals of Long Term Portfolio Management」Stanley Pliska (University of Chicago)

長期的な資産運用のパフォーマンス評価においては，漸近的な期待成長率および変動性が重要な基準となる．本発表では，二次計画法を利用した漸近的な平均・分散フロンティアの導出法が紹介された．また取引手数料が存在する場合に，投資比率のリバランスをどの程度の期間で行なうのが有利であるかを，シミュレーション例によって考察した．

●情報ネットワーク●

●第27回

日時：4月13日(金) 18:30～21:00 出席者：21名

場所：JR田町駅 日本電気新本社会議室

テーマと講師：「自律分散システム」森 欣司（日立システム開発研究所）

日立が，金融・証券情報システムや軌道輸送システムなどのように，一時たりとも停止することが許されず段階的建設とオンライン保守が必要な大規模システムを運営するために開発した，新しいシステム技術である自律分散システムの考え方を解説した．その根源には分子生物学での統合的見方があることを述べ，自律分散システムを自律可制御性と自律可協調性で特徴づけた．さらに，実際のハードシステムについて紹介し，冗長系との比較についても言及した．

●経営管理システム●

●第25回

日時：4月7日(土) 14:00～17:00 出席者：9名

場所：八丁堀東京都労務福祉会館

テーマと講師：「90年代予測」青木雅明（経済企画庁経済研究所次長）

軍備休戦と経済リストラの時代で日本にとっては経済政策と対外政策の確立を優先すべき時代です．技術革新は経済政策の基本とすべきテーマである．日本経済は年率3～5%で成長し，2000年には世界の「2割経済」となり，「3割経済」の北米，ECとともに世界経済の3極となる．中欧・ソ連・中国はあまり成長しないだろう．

会 合 記 録

編集委員会（OR事例集）	4月4日(水)	8名
企業サロン企画委員会	4月9日(月)	7名
理事会	4月12日(木)	18名
評議員会	4月12日(木)	59名
編集委員会（OR誌）	4月19日(木)	10名
企業サロン企画委員会	4月24日(火)	7名

第7回理事会議題

1. 総会議案の件

- 1) 平成元年度事業報告の件

- 2) 平成元年度収支計算および監査報告の件

- 3) 平成2年度事業計画の件

- 4) 平成2年度予算の件

- 5) 平成2年度3年度役員選任の件

- 6) 平成2年度3年度評議員選任の件

2. 第6回理事会議事録の件

3. 入退会の件

4. 経営工学関連4学会シンポジウムおよび日本工学会パネル討論会の件

5. 研究部会規程改正の件

6. FME S代議員選任の件

7. その他